

おとな分科会について

1 設立趣旨

おとな分科会の開催にあたっては、市内の障害のある18歳以上の方々を取り巻く課題の集約する組織づくりを前身として、平成28年度からおとな部会サロンを立ち上げ、議論を行ってきた。

就労については、これまでも当事者活動や就労継続支援A型・B型事業所の商品販促活動を通じた事業所PR活動など、市内でも活発な活動が行われており、それぞれの活動の参加者からも意見を集約してきた。

障害のある方の就労については、障害者雇用促進法の改正に伴う一般就労の機会の拡大がある一方で、久留米市においては就労継続支援A型・B型の事業所数の増加も見られている。就労をしたいという意欲や、できる能力があっても就労系サービスを使い続ける、または就労適齢期に最初から福祉サービスの利用を勧められるという現状が垣間見られた。さらに、久留米市の障害福祉計画でも福祉施設から一般就労への移行が成果目標として挙げられており、これまで障害のある方の今後の「はたらく」を応援する仕組み作りを模索し、障害福祉サービス事業所（就労継続支援A型事業所）勉強会を開催するなど一定の役割を果たしてきた。

障害者が仕事に就き働き続けるためには、就労に必要な知識や技術の習得はもとより、就労も含めた生活全般に対する総合的な支援があることも必要である。今後は障害のある方の「生活」に視点を向けて久留米市における現状の把握と課題の抽出、解決の方法を探るため分科会を開催していく。

2 これまでの取り組み <令和2年8月から令和3年7月まで>

(1) 目標

これまで、障害のある方の「はたらく」を応援するため、就労系障害福祉サービスを利用されている方々の実情を把握し、一般就労への移行についての課題の抽出について協議を行ってきた。これは久留米市第3期障害者計画でも一般就労の促進、福祉的就労の充実がうたわれている。

これらを踏まえ、就労継続支援A型事業所職員を対象に、令和3年度の報酬体系の改正に伴う行政からの説明と、就労系サービス利用者の一般就労に向けたアンケートの結果報告、設立当初から一般就労移行の支援に力を入れてきた就労継続支援A型事業所「藍」の実践報告を柱とした就労継続支援A型勉強会を開催することを目標とした。

(2) 取り組み

①分科会開催回数

計2回開催

第14回 令和3年4月9日開催

第15回 令和3年7月7日開催

②事務局会議

計3回開催

第15回 令和2年11月13日開催

第16回 令和3年3月23日開催

第17回 令和3年5月26日開催

③協議した内容

昨年度に引き続き、障害者の“はたらく”をテーマの中心に据え、一般就労に関するアンケートの分析、就労継続支援A型事業所勉強会を行うこととしていた。一般就労に関するアンケートの分析においては主に事務局を中心に行った。

事務局会議では就労継続支援A型勉強会の内容を中心に議論を重ねた。開催時期について令和2年度末を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大を受け、集合研修についてはリスクが高いと判断し、令和3年5月に延期。令和3年度からの報酬改定を受け、市障害者福祉課より説明を行うこと、事務局で集計・分析した就労に関するアンケート調査の結果報告、当初から一般就労移行を支援してきた就労継続支援A型藍の実践報告を行うこととなった。集合研修を検討したが新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、zoomによる開催となっている。

(3) 成果

- ・令和3年度障害福祉サービス事業所（就労継続支援A型事業所）勉強会開催

開催日時：令和3年5月14日（金）18：30～20：00

開催方法：オンライン（Zoom）

出席者数：32名（22事業所）

内 容：「一般就労に向けた移行支援」

1. 行政説明（就労継続支援A型事業の報酬改定について）
2. アンケート結果報告
3. 実践報告（就労継続支援A型事業所藍より）

①一般就労に関するアンケートの分析結果から、就労継続支援A型、B型利用者に共通して、利用者は一般就労への意識は高く、障害者雇用枠での一般就労を将来的に希望している方が多く見られた。一方で現在一般就労に至らない理由として、自信がない、希望する職種が見つからないという理由が見られた。就労系サービス事業所の支援においては、利用者の目標の細やかな設定と積極的なエンパワメント、そして適宜の就労アセスメントを通して適職を探すことも求められる。

②就労継続支援A型事業所からの一般就労への移行については、市の障害者福祉計画に数値化されていることも踏まえ、かねてから一般就労移行への支援に取り組んできた就労継続支援A型藍の実践報告を行った。参加した複数の事業所が実践報告を行った藍への見学を希望されたこともあり、A型から一般就労へ移行させる繋ぎの支援をA型事業所の役割として周知される必要性を感じている。

3 課題

(1) 一般就労に向けた支援の課題

就労継続支援A型事業所はいわゆる福祉的就労の中でも最も一般就労に近い雇用形態となっているが、一般就労に向けた支援の課題については、事業所の「経営」「運営」「支援」の3構造それぞれに、①経営の黒字化（外部からの仕事の受注、施設外就労の確保）の問題、②一般就労に近い利用者はA型事業所にとっても貴重な戦力となりなかなか外に出せない課題、③本人の希望を反映した個別支援計画に則った支援と就労に関するアセスメント、といった課題を洗い出した。

(2) 一般就労に結び付かない方などの選択肢の少なさ

障害のある方の「はたらく」をテーマに議論を蓄積した一方で、委員からは一般就労に結び付かない方々や重度の障害のある方の生活の場について、その選択肢の少なさが指摘されている。

4 事業計画 <令和3年8月以降の取り組み>

(1) 目標

障害のある方の就労に関する課題についてはこの3年間で一般就労への移行について議論、整理を行ってきた。就労継続支援事業については、障害のある方の収入の確保・安定を確保する手段として利用者に選択されている。おとな分科会では中でも就労継続支援A型事業所の課題を掘り下げて議論を行ってきた。就労継続支援A型事業所からの一般就労への移行は、ひいては障害のある方の「いつかは一般就労がしたい」という自己実現を叶えるステップとしてこれからも取り組んでいく必要がある。今回の障害福祉サービス事業所（就労継続支援A型事業所）勉強会は、就労継続支援A型事業所から一般就労への移行をテーマに進め、参加事業所からも高評価を得ることができた。今後も本勉強会については継続していく方針である。

また、一方では、より重度の障害のある方にとって、日中活動の場や、本人が望む生活に近づくような支援の在り方については、果たして選択肢は広がっているのかとの疑問も分科会の中では繰り返し述べられてきたテーマである。今後は、障害のある方の生活に着目し、現状の課題を模索していく。

(2) 取り組み

①障害福祉サービス（就労継続支援A型）事業所勉強会

第3期障害者計画の基本目標「自立して暮らし続けるために」では、一般就労の促進が掲げられているため、今後も障害福祉サービス事業所（就労継続支援A型）勉強会の開催を事務局・有志の就労継続支援A型事業所とで企画・立案していく。

②重度の方も、暮らす場所、通う場所の選択が出来るまちの実現に向けて前年度の施策推進部会において、当分科会副会長からも発言があったように、障害者を取り巻く課題は就労のみではない。当分科会は”おとな”という18歳から始まる長い当事者のライフステージを扱う分科会であることから、当事者の生活における課題、また利用できる制度の実際などを確認していきたいと考えている。特に地域で暮らす重度の障害がある方にとっての社会参加や日中活動の場の選択肢の幅について考え、「重度の方も、暮らす場所、通う場所の選択が出来るまち」を今後のテーマに据えて議論を深めていきたい。

③令和3年度の開催予定回数

・分科会

コロナ禍での分科会開催については zoom などのインターネット会議を用いるなどの工夫し活動を再開していく。

2か月に1度開催予定。

・事務局会議

分科会と同様に zoom などを用い開催。

今後も分科会前に事務局会議を開催予定。

- ・ 次回の障害福祉サービス（就労継続支援 A 型）事業所勉強会開催に向けて

事務局と有志の就労継続支援 A 型事業所とで勉強会開催に向けたワーキングを重ねていく方針。

（3）期待される成果

① 障害福祉サービス（就労継続支援 A 型）勉強会

今後の勉強会は就労継続支援 A 型事業所が主体的に呼びかけ、自走していくことを目指す。A 型事業所間のネットワークが密になることで、久留米市全体での支援の向上、一般就労への移行への積極性を高めることを目指したい。

② 重度の方も、暮らす場所、通う場所の選択が出来るまち

分科会の内部で、特に重度の障害のある方の生活に関する住まいや日中活動、社会参加への障壁となる課題について協議し、確認・整理する。